
短編人生

日向 剛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短編人生

【Nコード】

N2005Y

【作者名】

日向 剛

【あらすじ】

日常的なゆるぐだ学園生活をお楽しみあれ

説明書

主人公、河内^{かわうち} 敦^{あつし}は4月に希望高校に入学することになった。そこで河内はこれからの生活をするようになったのだが…

この作品はフィクションです。登場する作品、団体、人物、出来事は全て作者の妄想です。

「…あつつん、何一人で喋ってたの？」

…たのむ、地の文で反応するな。後、お前の出番はまだ後だ

「…変なあつつん。…お腹空いた。」

だから…読むなって、地の文。…こんな変な奴等、もしかしてこれからの生活に…？

入学

4月 日、俺、河内敦は、公立の希望高校に入学した。ここに通うことになったのは俺の成績なら間違いなく受かるレベルだったから。俺はあまり努力と言うものが得意じゃなかったから、無難に事を進めた。周りの奴等からは

「もったいない」

「あり得ない」

と、漏らしていた。特に親からは

「アンタなら未来大附属高も行けたんじゃないの!？」

と言われるくらいだった。俺の学力自体もそれくらいのレベルはあった。だけど面倒だった。高校なんてどうでも良かった。そして、これといった気持ちの高ぶりも無いまま（一般の人たちって、結構新しい学校生活にワクワクするんだろが、俺はしなかった）入学式を迎えた。

体育館で行われる入学式、沢山の親が居るなかで、校長が恒例の長話を展開している。ちなみに

俺の親はこの入学式には参加していない。

実は俺の親父と母さんは

「旅行行ってくるわね」

と、行ったつきり帰ってこない。昔宝くじで世界旅行を当て、俺と妹を残し行ってしまったのだ。まあ、時々手紙が来るので死んでは居ないらしい（毎回テンションが高い手紙で正直腹立つ）。

だから俺は、今二人暮らしだ。

まあ、正直知らない奴と過ごしてる訳じゃないから、まあ不快感は無い。ちなみに妹は今14歳。

…こんな俺の話をしてる間に校長の対してありがたい話終了。
俺は教室に向かった

俺のクラスは1年B組。1学年4クラスずつで、クラスの割り方は適当らしい。俺的にはさほどどうでも良いことだがな。

「…えー、俺が担任の羽根黒 了一。担当は国語。…よろしく。」
随分暗いのが印象の羽根黒 了一が、俺のクラスの担任らしい。…
つつか、先生つてこんなに暗くていいのかよ。担任、クラスの連中から目を逸らしてんぞ。

まあ、HRでの自己紹介があつた。俺は早めに済ませる事が出来たから助かった。だが、やっぱりこの自己紹介で失敗するやつも居るんだな。

「あ、ああ、あのっ！！猫原…みゆきですっ！！これからよろしく
お願いしまひゅっ！！」

名前の通り、何となく猫っぽい奴、猫原 実季。よくある上がり症

つて奴か？早速噛んで、顔真つ赤にしてやがる。

「よお！！初めまして！！俺は児島熱斗！！皆、熱く行こうぜ！」

…全く意味不な自己紹介をする奴が児島熱斗。…こーいうの苦手なんだよな、熱血つてどうも強引でさ。

「皆さん、ご機嫌よう。私は大道寺憐夏ですわ。私の名前には聞き覚えもあるでしょうから、私には失礼の無いように」

上から目線でもんでもない挨拶をしたのがこの高校の理事長の一人娘、大道寺憐夏。…こりゃあクラスで敬遠されるぞ、最初からこんなんじゃないな。そしてきわめつけは…

「えー、宇宙人、過去人…っだったっけ？まあいいや。そんな感じの人にしか興味ありませーん！朝野風です！チカツ」

…クラス中の奴が（；。 ） 的な感じの顔にした奴が、朝野風。…認めたくないが、こんなのが俺の幼馴染みだ。…風、頼むから著作権に引つ掛かる言動は控えてくれ。

…そんなこんなで自己紹介も終わり、これからの生活の内容を担当が話し、今日一日が終わった。放課後は部活見学をしようかなと考えているんだが…

部活

放課後、大体の学生が帰り、教室に残っている生徒はもうわずかだったが、そのわずかに俺も入っていた

「…面倒くさいな」

俺はHR中に渡された書類をてにため息をつく。この希望高校は全生徒が強制的に部活に入らなければならない。帰宅部という逃げ道もあるのだが、なぜか俺は悩んでいた。いや、悩まされていた

「面倒くさいとか言わないの！帰宅部は部活じゃないんだから、ちやんとした部活に入る、それが学生としての第1歩！」

「…なんでお前にンなこと言われなきゃならないんだよ」

クラスの中で一際浮いた女子、朝野風。彼女は俺の幼馴染っていうだけなのに異常に俺に世話を焼こうとする。俺からしたらこれ以上の迷惑はないのだが、俺が無下にしようとする

「…冷たいんだね…」

と、ずいぶん落ち込んでしまう。幼馴染なゆえに家族間での交流もある。その中で風を泣かしたらいろいろ面倒くさい。だから仕方なく考えているのだが…

「…ふう」

やりたい部活動が見つからない。体育系は却下。正直そんなに部活

に熱を入れる気にはならない。となると自然に文化系に目が行くのだが…

「…なんだこれ」

変な部活しかない…だと!?なんでだよ!まあ茶道とか、書道とかあるけど、「本部」ってなんだ?何の本部だ!?それに「カー部」ってのも変だろ!部活で曲がるの!?車の部活!?まだ免許取れませんが!?そのための勉強は自動車学校に行けよ!部活ですんなよ!さらに「チューリップ部」はなんなんだよ!?園芸部でよくね!?チューリップしか取り扱ってないの!?もつとほかの花も見てやれよ!?!?

「あつつん、顔色悪いよ?どうかした?」

「…なんでもない」

取り乱した。とりあえず、変な部活しかないのか、この学校…。そう考えていると、風が

「あつつん、この部、面白そうじゃない?」

といい、その部の内容を見せてもらった。それは…

「…!?!?」

『シヨ一部 部員募集!』

新入生のみなさん、わが部活に入って、何事にも勝負してみませんか!?興味がある学生は三階にあるシヨ一部の部室に足を運んでみてね! 3-A 部長 桜 カオル』

「…」

アカン、これはアカンよ、風。大事なことから一回言ったよ

どう見たって変だろ、この部活！なんでまた語呂合わせだよ！別にうまいこと言えなんて言っていないよ！？それに何と勝負するんだよ！？文化部にそんなの求めちゃダメだろ！

「おもしろそうじゃない？あつつん」

すごい笑顔でとんでもないことを言った風。…おいおい…

「ねえ、あつつん？ここを見に行こうよ きつと面白いよ」

「…マジか」

とりあえず風とその「ショー」部って所に向かう事になったんだが…さて、どうなることやら

シヨ一部

「…嘘だろ、本当にあるのか…」

「まあ、載ってたんだからあるでしょ？」

あの後俺と風はさっき話してた「シヨ一部」にたどり着いた。ここは三階。教室は三年生で形成されていて、俺ら一年は中々来ない場所だ。今は放課後というだけあって人影はない

「シヨ一部かあ…何するんだらうね？」

「知らねえ。というより知りたくねえ」

これは俺の本音だ。名前だけだと全く分からないし、知ったら後戻りできない空気がバンバン感じてる

「少し調べただけど、桜力オルさんって美人らしいよ？」

「…だからどうした」

「いや、あつつんならつられるかなあと思っただけ？」

「んなのでつられるか。俺をそこら辺の男と一緒にするな」

「でも美人さんだよ？早く会いたいなあ」

そわそわする風。コイツ、もしかして目的はそっちか？

「あ、ついたよ」

俺らが立ち止まった教室の立て札には「シヨ―部」と書かれている。
…意外と普通なのか？

「じゃ、入るよ？すいませーん！」

風がドアをノックする。それに呼応し、ドアを風が言ったような美女が開けた

「はあい…あら、どちら様あ？」

首を傾げ、俺らを見る美女…多分この人がさつき風が行っていた美人だろう。だが…

「…??？」

出るとこはしつかり主張し、他は控えめ。それに黒い長髪がまたこの人のランクをあげてる。これが世の中で言う（美少女）なのか？

「君？さつきから何で私をじいつと見てるの？」

「…あ、すいません」

とっさに謝ってしまった

「まあいいけどお…、あ、もしかして入部かなあ？」

「あ、はい！私たち、この部に興味があつて…」

…ん？

「おい待て風。俺は一言もそんな…」

「あちよっ」

言葉を続けようとしたとき、風のチョップが俺の後頭部を捉え、俺はそのまま意識を失った…

「…あらあ？その子、眠っちゃったのお？」

「ええ、そうみたいなんですよ！…それで、とりあえず二名、入部したいんですけど」

「分かりましたあ。じゃ、中にはいつてえ？」

そんなこんなでそのまま部室に引きずり込まれる俺。…え？なんで意識がないのに語り部をやってるのかって？それは（大人の事情）だから、聞くな！

勝負！？…BJ編

「…う、うん…」

目を覚ますと、そこは見知らぬ場所だった。何故かソファの上に寝かされている。…何があったんだ？

「あら、やっと目を覚ましましたねえ」

声をかけられた方に顔を向けるとそこにはさつき部室から出てきた桜さんが居た。桜さんは椅子に腰掛けコーヒーを飲んでいる

「んふ、目を覚ましたなら、早く始めなきゃなあ」

「…？」

そういうと、傍に来ていた風に目配せをする桜さん。…いつの間に仲良くなったんだ？そして風が持ってきたのは…

「んふ、私と、勝負してもらおうよ」

「…トランプ…すか？」

風が桜さんに渡したのはトランプだった。それをきり、二枚渡す

「シヨ一部の入部試験、始めるよお！シヨ一部の…勝負！」

「…は？」

桜さんが大きくガッツポーズをする。どうやらすんなり入部…という訳ではないらしい

「…桜先輩、これはブラックジャックですか？」

「うん、そだよ。ルールは簡単、21を目指せ。3回先勝で勝ちだよ！」

桜さんはほんわかする笑顔を振り撒きながら適当なルール説明をしている。どうやら普通のBJの様だ。…正直、気乗りはしない。この部に入ればもう二度と普通の学生に戻れない気がする。…だけど…

「さーさ、はじめよーせい」

…桜さんのヤル気満々な笑み。…美人がこんなにやる気なのに、やらないわけには行かないか

「…で、桜先輩。俺はこれに勝てば入部なんですか？」

「ん！認めるよう！負けたら認めないよ？バーストしたら…」

と、そこで言葉を切る。すると桜さんはおもむろに紙を取り出す。

…なになに…「退学」？…

「はあ！？何無茶言ってますか！」

「私はガチだよ？」

「この部に入るための為にどんだけ本気にならなきゃならないんだよっ！…！」

「なら棄権するう？棄権するんなら、この子も部には入れられないなあ……」

そういうと桜さんは顔を風に向ける。風は顔を真っ青にして俺の肩を揺さぶる

「絶対かてよっ！！あっつん！！！」

「わ、わわ、分かったから肩を掴むな！……ふう、仕方ない。桜先輩。その勝負、受けましよう！」

そして風に解放された俺は目の前に置かれた二枚のカードを引く

「……ふむ……」

俺の手持ちはAと4。と言うことは今は合計15……これで戦うのは少しつらいな。……桜さんは……

「……むむむ……」

正直、顔にはあまり出ないタイプ……ではないだろうが、全体的に表情を読み取りにくい人だからな、辛い戦いになりそうだ

「私は引くよ！しょーぶう」

桜さんが一枚引く。……てことは、あまり大きくなかったのか。……捨てる様子も無いから、バーストもしてないか

「ささ、ひきたまえよう」

桜さんが催促してくる。どのみち今の手札じゃ勝負にならない。引くさ！俺は祈りを込めて、カードを引いた！

「…！！ま、負けました…！」

俺が引いたのは7。合計22で、敗けだ。肝心の桜さんは…

「えへへ、危なかったあ」

まさかの…三枚で合計14（4、5、5）だと！？…侮れない、この人は…！

「あつつん、顔が某ギャンブル漫画の主人公のような顔になってるよ？」

誰だよ。つか、著作やべえって！

「んじゃ、二回戦行くよ？」

桜さんはまたカードをきり、二回戦が始まった。負けてたまるかあ…！

そうこうして、俺2勝、桜さん2勝で最終試合になった。桜さんは笑顔がさらに明るくなっていく。…嬉しそうだなあ…こっちは疲れただぜ

「よし、最終戦だよ」

「あつつん、負けたらダメだよ…！」

風の手力がこもってる。…その手で殴るなよ？

「ああ、負けねえよ。間違いなく勝ってやるぞ」

そして二枚を引く。俺の手札はAと9。…まずいなあ、これは微妙だ。20ならまず簡単には負けないんだが…

「んふふつ 私は引かないよ」

桜さんは初めに引いた二枚で勝負らしい。…だとすると弱くはない。…狙うか！

「じゃあ俺は行きます。…これで、俺の勝ちです！」

そして俺はカードを引き、手札を公開する！

「ほお〜う…お見事だねえ」

「す、すごい、あつつん！！」

俺の引いたのはA。…合計21で、ブラックジャックだ！

「たはーっ 参った参ったあ」

桜さんは20…勝った！

「よっしやー！」

思わずガッツポーズをする俺。それに抱きついてくる風

「やったあ これで二人、入部ですよね??」

「うん、正式に部員として歓迎するよ いらっしやい、我が『シヨ
部』へ」

「…あ、俺も入部か」

…勢いで勝ってしまった。これから、俺の学園生活はどうなるんだ
ろうな…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2005y/>

短編人生

2011年12月24日12時55分発行